（別紙２－４）

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　　総括表

法人名	医療法人社団松涛会	代表者	斎藤　妙子
事業所名	小規模多機能型居宅介護 くるみの家	管理者	中尾　効史

法人・事業所の特徴	「地域の中で生き生きとその人らしくゆったりと、楽しく自由にありのままに」を理念に利用者様の気持ちに向き合い、寄り添いながら支援すること大切にしています。また地域に密着したサービスの向上を心掛けています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	人	1人	人	2人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	改善計画を一人ひとりに浸透させ、チーム全体で包括的な視点を持つことで、今後のスキルアップを目指していく。	チーム全体で利用者の様子を注意深く観察し、個別性を重視する対応に努めている。	新型コロナウイルス感染症により様々な活動に制限が加わる中で利用者本人や家族のニーズに耳を傾け、できる限りの対応はできていると感じた。毎回の改善計画に取り組む姿勢みられる。	昨年同様、各項目の具体的な改善計画を一人ひとりが理解し、達成に向かって取り組むことで一歩ずつ前進して行く。
B．事業所のしつらえ・環境	今後も施設内の設備・備品の点検を定期的に行い故障や不具合・汚れ等がないように維持し、感染対策等含め配慮しながら、居心地が良い環境作りを継続していく。	本年度は感染対策については新型コロナウイルス感染防止の法人のマニュアルに沿い、面会制限や消毒の徹底を行った1年であった。	しつらえ、環境面での意見は特に無かった。	引き続き感染対策を重点に置き、施設内の設備・備品の点検を行っていく。季節ごとの飾りつけ等で利用者に季節感を味わったり楽しみをもってもらいながら居心地の良い環境作りを行っていく。
C．事業所と地域のかかわり	地域作りに向けて、認知症サポーター養成講座（キッズサポーター）を年間計画に取り入れ地域包括支援センターと協働し開催していくことで、事業者が地域住民との公共の場になるように取り組んでいく。	認知症キッズサポーター養成講座を地域包括支援センターや松濤会のバックアップにより安岡小学校にて開催することができた。	認知症キッズサポーター養成講座では、所属を超えた連携を図り、認知症劇を取り入れて児童にわかりやすく・飽きさせない講座の企画をされ、大変素晴らしいと感じた。	今後も地域包括支援センターと協働し地域交流を行っていきたい。施設での取り組みを地域の方に知ってもらえるよう発信していく。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域のある資源を柔軟に多角的に収集し、ボランティアや住民活動などのインフォーマル活動や多様な社会資源を活用出来る様、ケアマネジメントを行っていく。	新型コロナウイルス感染防止の為ボランティア等の社会資源の利用が困難だった為、事業所内でのイベント活動しか出来なかった。	新型コロナウイルス感染症の影響で地域の活動は大部分ストップし、当初予定していた取り組みが難しい状況だった。落ち着き次第活動情報が入ればお知らせしたい。	新型コロナウイルス感染予防で地域活動の有無や参加可能かは不透明である。出来ない場合は施設内のイベントで喜んで頂くよう取り組む。
E．運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議の中で頂いた意見を参考にしながら、地域との交流を大切にした社会参加を行っていき柔軟できめ細やかな運営を目指していく。	運営推進会議が１回しか開催されず、ほとんどが書面での開催となってしまった。	成年後見制度の活用があれば具体例を人権、プライバシーに配慮した形で知らせて欲しい。	引き続き、運営推進会議の中で聞いた意見を参考にしながら地域との交流を大切にした社会参加を行っていきたい。
F．事業所の防災・災害対策	水害時の災害時の避難訓練を支援できる事業所となれるよう、自治会と協働し地域の特性に合わせた取り組みを目指していく。	地域との協働した取組は出来なかったが昼夜問わず火災、地震、水害時に利用者が避難出来るように訓練出来ている。	防災、災害対策についての意見は特に無かった。	災害時に助け合える関係作りを構築し、施設を避難場所として提供すること等で地域の中で頼りになる存在を目指す。